（様式　４）

試　験　経　過　記　録

区　分	指　　示

大　分　営　林　署

１　稚樹の発生、残存数調査

稚樹の新たな発生はプロットＩに２本確認されたが、同プロット内でシカによる樹皮剥離の被害により１本の枯損があった。
稚樹のプロット別残存本数はプロットＩ＝４９本、プロットII＝１２本、プロットIII＝１本で現存本数は６２本である。
稚樹の平均根元径１３ｍｍ、平均樹高５４ｃｍとなている。年間に根元径７ｍｍ、樹高１９ｃｍの成長があった。

２　原因別枯損調査
完全な枯損は稚樹がシカによる樹皮剥離のため１本あったが、枯死にはいたらなかったが、ウサギによる食害１０本、シカによるものが５本、その他（下刈よる切損）１本があり、枯損１本をふくめ被害本数は１７本であった。植栽樹に９本、稚樹に８本で被害率は１４％、枯損率は０．８％となった。
被害の態様は植栽樹では、枝先に若干の食害がある程度で成育上問題はないが、稚樹は樹冠が切断され再生木となり樹型のみだれが懸念される。

３　種子の豊凶調査
種子の着果は少しで凶であった。

４　その他
平成元年度設定区の１伐区（後期経過観察区）の下刈を実行
稚樹の発生箇所に下刈時の切損防止のマーカーを竹で設置
植栽樹、稚樹、萠芽木区分のためアルミ板ラベラーを表示中

（様式６）

状　況　写　真

区分	指示

大分　営林署

保残区の林相

稚樹の発生状況

（様式６）

状　況　写　真

区分	指示

大分　営林署

正常木（植栽木）

再生木

（様式６）

状　況　写　真

区分	指示

大分　営林署

稚樹（幼樹）

稚樹の成長状況

（様式６）

状　況　写　真

区分 指示

大分　営林署

被害木（ウサギ）

被害木（シカ）

（様式６）

状　況　写　真

区分	指示

大分　営林署

萠芽の株の状況

平成８年度技術開発実施報告書

様式2-2

課題名	イチイガシの人工林を複層林へ誘導する施業方法について				
課題区分	指　　示	開発箇所	大　分	開発期間	昭和６３年度 ～ 平成 ９ 年度

当年度別実施計画	当年度実施報告
1　稚樹の発生、残存数調査	1　稚樹の新たな発生は、地床に草類等が繁茂し芽生えを確認していない。稚樹の残存本数は３プロット（３００m2）内に５２本残存しているが、前年度より１０本減少した。
2　下木の成長調査 植栽木、萠芽木、稚樹	2　植栽木の根元径と樹高は３１㎜と１７７㎝で前年度に比べ６㎜、３６㎝の成長があった。萠芽木は２５㎜と１９０㎝対前年０㎜と－５㎝となったが、複数の萠芽木の観測は最大木を取ってきたが、枯損により次木を観測したためである。 稚樹は１４㎜と８６㎝対前年１㎜と１２㎝の成長となっているが、１０本の減を考慮すると測定上の誤差が原因と思われる。
3　枯損調査	3　植栽木の被害は樹幹の枝の側葉をシカ、ウサギによる食害は多々見受けられるが、樹冠部の被害は樹高の成長により見受けられなくなり、生育上支障はない。稚樹の被害はウサギによる樹冠部、側枝葉部の食害があり、特に樹冠部が切断され樹型の乱れた再生木や枯死が観察された。 萠芽木は前年度同様３株残存しているが、一株から複数発芽した萠芽木の一部に枯損が発生した。
4　保育の検討	4　新植（稚樹の移植）、稚樹への忌避剤の散布 萠芽木の芽かぎ 再生木の樹型の矯正
5　種子の豊凶調査	5　種子の落下は皆無の状況であった。